海と生きる 未来を築く

大谷海岸で遊ぶ子どもたち。健やかに海と生きる姿は地域の希望そのものだ＝5日、気仙沼市本吉町

東日本大震災きょう11年

東日本大震災は11日、発生から11年になる。第2期復興・創生期間（2021～25年度）に入り岩手、宮城、福島3県では防潮堤や災害公営住宅のハード整備をほぼ終えた。一方、東京電力福島第1原発事故の避難者を中心に3万8139人が古里に戻れていない。残された課題に向き合いつつ、関連死を含め約2万2200人の失われた命の鎮魂を祈る一日になる。

◇

警察庁によると昨年3月1日以降、1人の遺体が犠牲者と判明。死者は1万5900人、行方不明者は3人減って2523人となった。避難生活による持病の悪化などが原因の関連死は、河北新報社の2月末時点の集計で3786人に上る。

昨年は三陸沿岸道（仙台市―八戸市、359キロ）など総延長570キロの復興道路・復興支援道路が全線開通。3県の伝承施設もそろい、災禍の記憶の継承は年々重みを増す。

気仙沼市本吉町の大谷海岸は、住民と行政が知恵を出して防潮堤の建設位置を陸側に後退させ、地域の宝の砂浜を守った。昨夏、11年ぶりに海水浴場が復活。震災後生まれの子どもたちが海と触れ合った。

「未来ある子どもたちが健やかに成長できるように見守りたい。復興事業が減り、経済的に苦しむ家庭もある」。震災直後から地域児童を支える気仙沼あそびーばーの会代表の鈴木美和子さん(73)は話す。

真新しい街並みの陰に癒えない心の傷を抱えた人もいる。孤立しがちな状況に新型コロナウイルス禍が追い打ちを掛ける。誰一人取り残さない復興を目指し、被災地に生きる人々は12年目へと歩み出す。

停戦合意 進展なし

初の外相会談　ウクライナ侵攻

【アンタルヤ共同】ロシアのラブロフ外相とウクライナのクレバ外相が10日、トルコ南部アンタルヤで会談した。停戦に向けた進展はなかった。両外相が会談後、個別に記者会見し明らかにした。2月24日のロシアの侵攻後、両国の閣僚レベルの会談は初めて。クレバ氏は降伏しないと強調した。

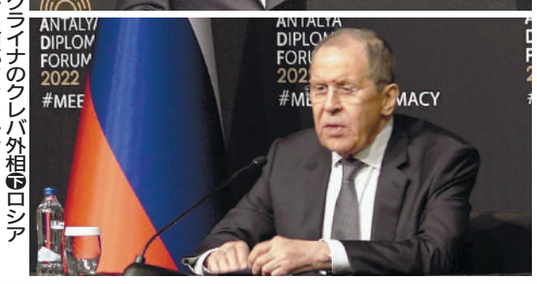
ウクライナ側は約10日間にわたり包囲攻撃が続く南東部マリウポリだけで約1170人が死亡したと発表した。「人道回廊」による市民退避は戦闘が続き難航している。

クレバ氏は市民退避などのため24時間の一時停戦を申し入れたが合意できなかったと述べ、失望を表明。今後も外相会談を続ける意向を示した。

ラブロフ氏は、停戦についてはベラルーシでの高官協議で話し合われると指摘。プーチン、ゼレンスキー両大統領の会談の可能性についてクレバ氏と協議したと明かす一方、首脳会談には「具体的な成果が必要だ」とし、時期尚早との見方を示した。

外相会談はトルコが仲介。高官協議はこれまで3回行われたが進展していない。人道回廊の設置では一致し、8日に東部スムイで市民退避が始まり、ウクライナ側によると9日までに市民5万人以上が退避したが、流血が拡大するマリウポリや人口143万人の東部ハリコフでは実現していない。

ロシアはウクライナに、北大西洋条約機構（NATO）加盟断念を意味する中立化のほか、非武装化、2014年にウクライナから強制編入した南部クリミア半島の領有権、東部の親ロ派地域の独立承認を要求。ウクライナ側は、米欧ロなどが条約で安全を保障すればNATO加盟棚上げを検討する姿勢もにじませるがクリミアや東部の主権は譲れないとしている。



↑会談後、記者会見するウクライナのクレバ外相 ↓ロシアのラブロフ外相＝10日、トルコ南部アンタルヤ

河北春秋

11年前、大津波が襲った後で海辺の町に住む肉親と連絡が取れなくなった。道路は寸断され、車の燃料はわずか。現地に行くのは無理だ。当欄の筆者は安否を気遣う眠れない日を過ごした▼何日かたって避難所で携帯に充電ができたらしく、電話が来た。「みんな無事。子どもたちも山に駆け上って津波から逃げた。毎年、小さい頃から避難訓練していたから」。かつての津波被害を教訓に、町ぐるみ、地域全体での訓練が生きた▼過去の災害を地域ぐるみで伝承し、住民の意識に定着させ、災害時にはいち早く適切な行動を取る。その土地の細かな地形や歴史に詳しい住民にしかできない。ごく平凡にも思える地域の力こそ、自らの命を守る行動につながる▼東北大の佐藤翔輔准教授が監修した子ども向けの本『災害伝承の大研究』に長崎県の集落の例が載っている。江戸時代の土砂災害を忘れないように、いまも月命日にまんじゅうを各戸に配る。その後の豪雨災害の避難に生きているという▼東日本大震災から月日が経過するほど、避難しない問題が深刻になっている。災害遺構、伝承施設、記念碑、言い伝え、体験者の語り部の活動。そのどれもが「早く逃げて」と訴える。日本海溝・千島海溝の巨大地震が心配されるいま、再度心に刻みたい。（2022・3・11）

政府広報 復興庁

東日本大震災で犠牲となられた方々への追悼をお願いします

本日3月11日、東日本大震災の発生から11年を迎えます。皆様には、午後2時46分から1分間の黙とうをお願いいたします。これからも、復興に向けて全力で取り組んでまいります。

2022年（令和4年）3月11日（金）
河北新報社
〒980-8660
仙台市青葉区五橋1-2-28
www.kahoku.co.jp
「東」は、未来
総合案内 022(211)1111
読者センター(211)1447
ご購読申し込みは
オオク ミナヨム
0120-09-3746
河北新報

再生へ 心ひとつに

東日本大震災 11年

ニッカ　希望の大麦でウイスキー 9

ニッカウヰスキーは、震災で被災した東松島市野蒜地区で栽培した「希望の大麦」を使い、ウイスキー原酒の製造を仙台工場宮城峡蒸溜所（仙台市青葉区）で始めた。

岩沼　「希望の灯火」心も復興へ 21

震災の追悼行事「希望の灯火」が岩沼市下野郷の千年希望の丘相野釜公園であり、約200人が参列した。市内の震災犠牲者数と同じ181基の灯籠が並べられた。

釜石の24歳　遊漁船で浜に新風 29

津波被害を受けた釜石市唐丹湾で、遊漁船事業を営む千葉健太郎さん(24)が、三陸の海の楽しさを釣り客に伝えている。新たな船も購入。浜に新しい風を吹かせる。

NPO女性職員　心の復興 問い掛ける 30

「震災は決して終わったわけではない」。石巻市のNPO法人職員永沼さやかさん(27)は、震災の語り部をする妹を見守りながら、そんな思いを抱き続けている。

特　集　ハード復興 歩み着実 16 17
社説　東日本大震災11年／風化にあらがい続けよう 5
ウクライナ侵攻関連記事 2 7 8 22 28 30
韓国大統領選　保守系・尹氏が当選 2 6
東北楽天　則本、7度目の開幕投手 12
声の交差点 5
国際・総合 7
スポーツ 12
くらし・小説 14
娯楽 19
宮城県内版 20～23
BS・ラジオ 26
囲碁・将棋 26
ワイド東北 28 29
テレビ 32

きょうの天気

総合天気はワイド東北面へ

	6	9	12	15	18	21	0時		
仙台	☀	☀	☀	☀	☁	★	20	14	1
青森	☀	☀	☁	☁	☁	☁	30	10	-3
盛岡	☀	☀	☁	☁	☁	☁	30	11	-3
秋田	☀	☀	☀	☁	☁	☂	60	10	-1
山形	☀	☀	☀	☀	☁	★	20	13	-3
福島	☀	☀	☀	☀	☁	★	10	17	-1
札幌	☀	☀	☁	☁	☁	☁	30	6	1
大阪	☀	☀	☀	☁	☁	☁	10	17	6
東京	☀	☀	☁	☁	☁	☁	10	18	6
広島	☀	☀	☁	☁	☁	☁	10	17	6
名古屋	☀	☀	☀	☁	☁	☁	10	18	4
福岡	☀	☀	☀	☁	☁	☁	10	19	9

東日本大震災

	死者	行方不明者	関連死者
宮城	9544人	1213人	929人
岩手	4675人	1110人	470人
福島	1614人	196人	2331人
全国	15900人	2523人	3786人

（警察庁などまとめ。関連死は河北新報社調べ）

4910855311120 00136

東日本大震災発生から十一年　復興を支える一冊

あさになったので まどをあけますよ
荒井良二
偕成社
〒162-8450 東京都新宿区市谷砂土原町3-5
TEL.03(3260)3221 FAX.03(3260)3222
http://www.kaiseisha.co.jp/

震災時、実家のお寺が避難所になった陸前高田出身の著者が伝えたいこと
大切な人は今もそこにいる
ひびきあう賢治と東日本大震災
千葉 望　定価1430円(税込)
理論社 東京都千代田区神田駿河台2-5
https://www.rironsha.com
TEL.03-6264-8890 FAX.03-6264-8892

あの日を忘れない――
被災地の実話から生まれた絵本
かあさんのこもりうた
こんのひとみ 作／いもとようこ 絵
定価1,540円(税込)
かぜのでんわ
いもとようこ 作絵
定価1,540円(税込)
ハナミズキのみち
浅沼ミキ子 文／黒井 健 絵
定価1,430円(税込)
100年の笑顔・夢　100年先の未来も
金の星社
〒111-0056 東京都台東区小島1-4-3
TEL.03-3861-1861 FAX.03-3861-1507
https://www.kinnohoshi.co.jp

10年目の手記
震災体験を書く、よむ、編みなおす
瀬尾夏美・高森順子・佐藤李青・中村大地・13人の手記執筆者 著
河北新報社編集局・金菱 清 著
定価 2090円(税込)
言葉にしてこなかった震災の話を教えて下さい――。この呼びかけから本書は生まれた。住む場所も体験も様々な人々の手記を通し、四人の著者が背景に思いをはせ、自身を重ねた。他者の声に耳をすます実践の記録。小野和子(民話採訪者)特別参加。
生きのびるブックス TEL.03-5784-5791 FAX.03-5784-5793
東京都渋谷区代官山町4-1代官山マンション705

あなたに伝えたい
逢える日まで
3・11遺族・行方不明者家族 10年の思い
河北新報社編集局・金菱 清 著
四六判200頁・定価1980円(税込)
大切な人はどこに？　あの日の行動を知りたい　復興の陰に隠された悲しみと悔恨、あふれ出る追慕と感謝……2021年度新聞協会賞を受賞した東日本大震災の10年。
新曜社 東京神田神保町3-9 電話 03-3264-4973
https://www.shin-yo-sha.co.jp/

東北大学出版会
東北大学災害科学国際研究所 編
東日本大震災からのスタート
災害を考える51のアプローチ
あの時、何が起きたのか。あの日から、何が変わったのか。多様な領域の専門家たちが論じる、被災地発の災害研究の現在地。
B5判／3300円
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
☎022-214-2777 FAX.022-214-2778
https://www.tups.jp 【価格税込】

弘文堂
災害の進化にコミュニティのみんなと立ち向かう。
地区防災計画学の基礎と実践
室崎益輝・矢守克也・西澤雅道・金菱清編
減災・防災をまちづくりに実装するとは？ 地区防災計画制度創設の背景と実践のためのノウハウを紹介。2420円
被災したあなたを助けるお金とくらしの話【増補版】岡本 正著
ローン、住まい、支援金、貴重品、公共料金、契約トラブル…様々な生活再建のニーズにこたえる。防災バッグに必須の「知識の備え」最新増補版！ 1430円
〒101-0062 千代田区神田駿河台1-7
TEL.03-3294-4801 FAX.03-3294-7034
www.koubundou.co.jp/（価格は税込）

岩波書店
高橋 原・堀江宗正
死者の力
―津波被災地「霊的体験」の死生学
四六判 定価2640円
津波被災地で語られ、人々の関心を集める「霊」体験。被災地住民と宗教者への聞き取りに基づき、「死者の力」に迫る調査研究の決定版。
〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋
http://www.iwanami.co.jp/